

豊前國企救郡平松浦屋崎二至國界、二十間

〔延喜式〕二十八諸國驛傳馬略中
兵部

筑前國驛馬獨見、夜久各十五疋、島門廿三疋、津日廿二疋、席打夷守美野各十五疋、久傳馬御笠十五疋、郡
爾十疋、佐尉深江比苦額田石瀨長丘把伎廣瀨隈崎伏見綱別各五疋、久傳馬御笠十五疋、郡

天地之神毛助與草枕羈行君之至家左右

古今著聞集草木經信卿太宰帥に任じて下向の時、八月十五夜に、筑前國筵田驛につきたりけるに、天はれ月あきらかなるに、館の前に大きなる槐ありけり、枝葉ひろくさしおほひて月をへだてければ、人をめしあつめて、たちまちに其木を切はらはせて、月にむかひて夜もすがら琵琶をかきならして、心をすまして、天あけぬればたゝれにけり、かゝるすき人も、今はなき世なりけり。〔筑前國續風土記五席田郡〕篇信曰、筵田の驛、古へ此郡○蓮の内いづちにありしにや、今は其所玄れず、若し今月隈と云所、彼經信の卿月を見られし所なるか、大なる槐の木有し由著聞に記し侍れば、槐隈と書りしを、後訛りて月隈とかくにや、月隈は此郡の東山下に有、此所往昔の道有て、宿驛ありしにや、

建置沿革

日本國郡沿革考三
西海道筑前 古筑紫國或作筑志、又竺志、國造記、杜氏通典作竹斯、筑前四部稿等作竺前、分爲前後末詳
在何時、筑紫後國之名、既見景行紀、蓋其前所分析、延曆十六年九月廢筑前隸太宰府、大同三年五月再置上國管十五
郡、九百一村。

遠賀九十五村 神武紀作岡、筑
前風土記所謂瑞鯛縣卽是 宗像六十村 萬葉集作宗形
之 地 夜須五十六村 和名抄注東西蓋中古分爲東西二郡後復併
爲一者 神功紀云滅熊襲我心則安故號其處曰安卽是 駒手七十七村
平十年廢太宰府建築紫鎮西府置將軍十七年復太宰府 神功紀云自
檣日宮遷于松峽宮時瓢風忽起御笠隨風散落故時人號其處曰御笠 穂波六十
二村

閑紀穗波屯倉卽是 安閑 上座三十八村 下座造見國造記卽下座郡馬
延喜式等作穗浪安 嘉麻紀鎌屯倉卽是 上座三十八村 下座造見國造記卽下座郡馬

嘉麻六十八村 安閑 上座三十八村 下座造見國造記卽下座郡馬

穂波二村